

乳房インプラント(ゲル充填人工乳房)による乳房手術を希望されている方へ

日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
日本形成外科学会
日本乳癌学会
日本美容外科学会(JSAPS)

乳房再建術や豊胸術後に生じるまれな合併症として、乳房インプラント関連未分化大細胞型リンパ腫(Breast Implant Associated-Anaplastic Large Cell Lymphoma (BIA-ALCL))という疾患があります。この疾患はT細胞性のリンパ腫と呼ばれるもので、乳がんとは異なる悪性腫瘍です。主に表面の性状がザラザラなインプラントを使用した症例で発生します。

2019年7月まで国内で使用されていたアラガン社の製品は、表面の性状がザラザラで、凸凹が深く表面積が大きいマイクロテクスチャードタイプに該当し、BIA-ALCLのリスクが他のタイプよりも高いため、出荷停止となっています。

その後、これらの製品の代替品として、スムーズタイプ(表面がつるつるの性状)のティッシュエキスパンダーやインプラント、マイクロテクスチャードタイプ(表面の性状がザラザラで凸凹が浅く表面積が小さいタイプ)のインプラントが認可されました。いずれも米国・カナダで現在流通している製品です。

- 乳房再建用ティッシュエキスパンダー ナトレル 133S (アラガン社)
スムーズタイプ(表面がつるつる)、アナトミカル型(しずく型)、注入ポートが内包されています。スリップしやすいため、位置を固定するためのタブがついています。

- 乳房インプラント

- 1. スムーズタイプのインプラント

- 全てラウンド型(おわん型)です。スムーズタイプのインプラントはBIA-ALCLのリスクは限りなく低くなります。

- アラガン社のInspiraシリーズとシエントラ社のSientraブレストインプラントがあります。

- 日本人の一般的な乳房と形状が異なること、破損や被膜拘縮等の合併症に注意が必要です。従来のラウンド型インプラントと比べて充填率の高い(やや硬めで皺がでにくい)ゲルが選択できるようになりました。

- 2. マイクロテクスチャードのインプラント

- シエントラ社のラウンド型(おわん型)とアナトミカル型(しずく型)のインプラントがあります。乳房の形態によっては、アナトミカル型の方が適合しやすい場合もありますが、種類が少ないことと、術後インプラント回転などの合併症の可能性もあります。

- BIA-ALCLの発生率は明らかになっていませんが、現在報告されている733例のBIA-ALCL発症例のうち、シエントラ社(マイクロテクスチャードタイプ・国内承認品)の製品は10例と報告されています。

- ※参考

- アラガン社マイクロテクスチャードタイプ(出荷停止): 620例の発症(約2200-3300人に1人)
国内発生は2例(2021年7月現在)

- メンター社マイクロテクスチャードタイプ(国内未承認): 50例の発症(86029人に1人)

BIA-ALCLは、インプラントを入れてから平均8年ほどで発症する可能性があり、症状としてはインプラント周囲に液体がたまって胸が大きく腫れることや、インプラント周囲のしこりなどがあります。BIA-ALCLを発症しても、多くの場合はインプラントとその周囲の組織を切除することで治癒するとされています。

本学会では、インプラントの破損や合併症の発見のために2年に1度の画像検査を推奨してまいりました。このBIA-ALCLにおいては、まれな疾患ですが早期発見が重要となりますので、引き続き一生涯の自己検診と医療機関での定期検診の継続をお願いいたします。また、異常を感じた場合にも受診をお願いいたします。

* 内容に関して不明点がありましたら、日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会事務局(e-mail: jopbs-office01@shunkosha.com) までお問い合わせください。